

# 令和2年度 日本語教育能力検定試験 解答例

千駄ヶ谷日本語教育研究所

## 試験 I

問題1	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
	1	2	5	3	2	5	1	4	2	4
	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					
	5	1	3	5	3					

問題2	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	4	2	1	4	4

問題3	A					B				
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
	3	1	4	4	2	2	4	2	4	3
	C					D				
	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)
	1	4	3	2	4	2	4	1	2	3

問題4	問1	問2	問3	問4	問5
	3	1	1	2	1

問題5	問1	問2	問3	問4	問5
	1	2	3	2	4

問題6	問1	問2	問3	問4	問5
	4	2	4	3	3

問題7	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	2	4	1

問題8	問1	問2	問3	問4	問5
	3	4	1	3	4

問題9	問1	問2	問3	問4	問5
	3	2	1	4	3

問題10	問1	問2	問3	問4	問5
	3	4	2	1	3

問題11	問1	問2	問3	問4	問5
	3	2	2	1	3

問題12	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	1	3	1

問題13	問1	問2	問3	問4	問5
	2	1	4	3	2

問題14	問1	問2	問3	問4	問5
	1	2	2	3	4

問題15	問1	問2	問3	問4	問5
	3	1	4	1	2

## 試験 II … 略

◆ この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

## 試験Ⅲ

問題1	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	2	1	2

問題2	問1	問2	問3	問4	問5
	1	2	2	3	4

問題3	問1	問2	問3	問4	問5
	2	4	4	2	1

問題4	問1	問2	問3	問4	問5
	3	2	4	2	1

問題5	問1	問2	問3	問4	問5
	4	1	2	4	3

問題6	問1	問2	問3	問4	問5
	1	3	4	3	1

問題7	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	4	1	2

問題8	問1	問2	問3	問4	問5
	4	2	1	1	2

問題9	問1	問2	問3	問4	問5
	3	4	2	2	1

問題10	問1	問2	問3	問4	問5
	3	4	1	3	2

問題11	問1	問2	問3	問4	問5
	2	1	3	2	1

問題12	問1	問2	問3	問4	問5
	1	2	3	3	4

問題13	問1	問2	問3	問4	問5
	3	1	1	4	3

問題14	問1	問2	問3	問4	問5
	4	4	3	2	1

問題15	問1	問2	問3	問4	問5
	2	3	2	4	4

問題16	問1	問2	問3	問4	問5
	1	3	4	1	3

◆この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

## 試験Ⅲ

### 問題17

「やさしい日本語」は、そもそも日本語に不慣れな外国人に必要な情報を伝えることが目的である。外国人の日本語力が低い、という理由で提案されたものではない。また、正しい日本語を覚える機会を与える、という目的もない。したがって、批判は的外れである。

CEFRの理念である複言語主義は、ヨーロッパという多様な言語環境の中で、個人が使用可能な言語の数を増やしていくという考え方である。ただ、それぞれの言語を母語話者並みにするのではない。部分的な能力でもコミュニケーションは可能だとして、限定的な範囲の外国語習得を推奨している。

「やさしい日本語」は、日本語学習の初期の段階で学ぶ日本語である。複言語主義で言うところの「限定的な範囲」の日本語である。ただ、この日本語は、日本語に不慣れな外国人でも理解ができる。限定的な範囲であっても、情報伝達的手段として有効なのである。この点の認識が社会的に広まれば、的外れの批判はなくなると思われる。(409字)

「やさしい日本語」は更に普及されるべきである。批判意見に対しては、普及の必要性を理解してもらおうべきだと考える。これは、個人が持つ複数の言語知識を駆使してコミュニケーションを取ることに価値を置く複言語主義による。

定住外国人は年々増加し、国籍も多様化している。彼らが日本で生活するためには、災害時、平時に関わらず、正確な情報を日本語で無理なく取得できることが必要だ。同時に日々日本語でコミュニケーションも取れなければならない。我々は日本で生活する全ての外国人にネイティブレベルの、所謂「正しい日本語」を求めがちだ。しかし、複言語主義に倣い、お互いの持つ言語・非言語知識を総動員させて理解し合おうという歩み寄りが大切であり、そこで有用なのが「やさしい日本語」なのである。

ただ、大学での論文発表、会社での書類作成など、「正しい日本語」を使う場面もある。「正しい日本語」と「やさしい日本語」は必要な場面が異なるのである。(405字)

◆この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

### ◆今年度の試験についての感想◆

今年度、出題傾向が変わったのは、試験Ⅲ問題17の記述式問題である。キーワードが三つ(複言語主義・言語権・規範主義)示され、そこから一つ以上選び、テーマについてその用語を関連付けて自身の考えを述べる、という問題である。この出題形式は初めてである。しかも、その用語をどのような意味で使ったのか、わかるように書く必要がある。この検定試験の対策では、毎年度変わらず、かなりの量の用語を覚えることが必要になる。また、出題される問題の問いは、用語の適切な説明を選ぶ問題、および説明に合う用語を選ぶ問題が比較的多い。問題文には「次の文章を読み～」とあるが、用語を理解していれば、その文章をほとんど読まずとも、答えられる問いもある。ただ、これまでは、覚える用語の量はかなり多いと言っても、理解語彙でよかった。しかし、今回のような形式の記述式問題が続くとすれば、使用語彙とすべき用語も出てくる。受験者にとっては、対策により多くの労力が必要となる。今回の検定試験は、受験のために乗り越えるべきハードルを高めた、と言える。